

平成24年

第11回

女と男の一行詩

ひと
ひと
ひと



応募者数
532名
応募総数
1290点

最優秀賞

夢だった 決まった職場に男女の差

将来の職業について考えているときに、夢と希望を持って入った職場に男女の差があると嫌だなという気持ちからこの詩を書かせてもらいました。賞を頂けて嬉しいです。

棚瀬千帆さん（高校生）

優秀賞

できること 男と女じゃ違っけど だから可能な 助け合い

男性も女性もそれぞれできることとできないこととってあるから、できないことは助けてもらって、できることは助けてあげる、というのが本来の理想だと思います。

大野美希さん（高校生）

優秀賞

父と母 我が家の大事な 大黒柱

両親が家族を支えてくれるために毎日働いてくれたり、料理を作ったり、旅行に連れて行ってくれたりする事に、感しゃしているから。

中山雄登さん（小学生）

入選

育メンと 流行る言葉に

感じる差

「育メン」が注目されている今、まだ子育ては女性中心と思われがちです。この言葉が流行で終わらず、お互いに協力していくことを願いました。

有安友美さん（一般）

入選

違います 女性は育児の

プロじゃない

この作品には女性ばかりに育児を任せてはいけないという意味を含めています。女性ばかりに育児を任せる男性が多いのでこの作品がぴったりかなと思いました。

斉藤回哉さん（高校生）

入選

父は母に感謝する 母は父に

感謝する 僕はふたりに感謝する

菜原惟信さん（高校生）